

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI 三菱総合研究所

証券コード:3636

2025年2月20日

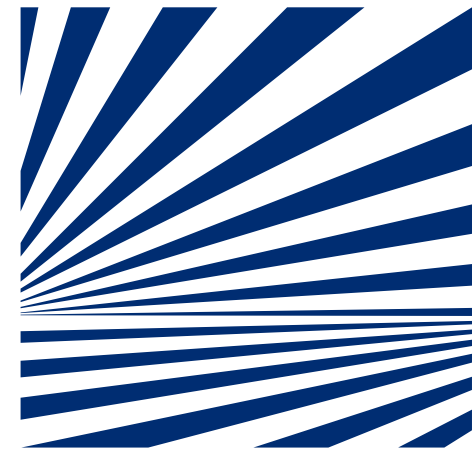
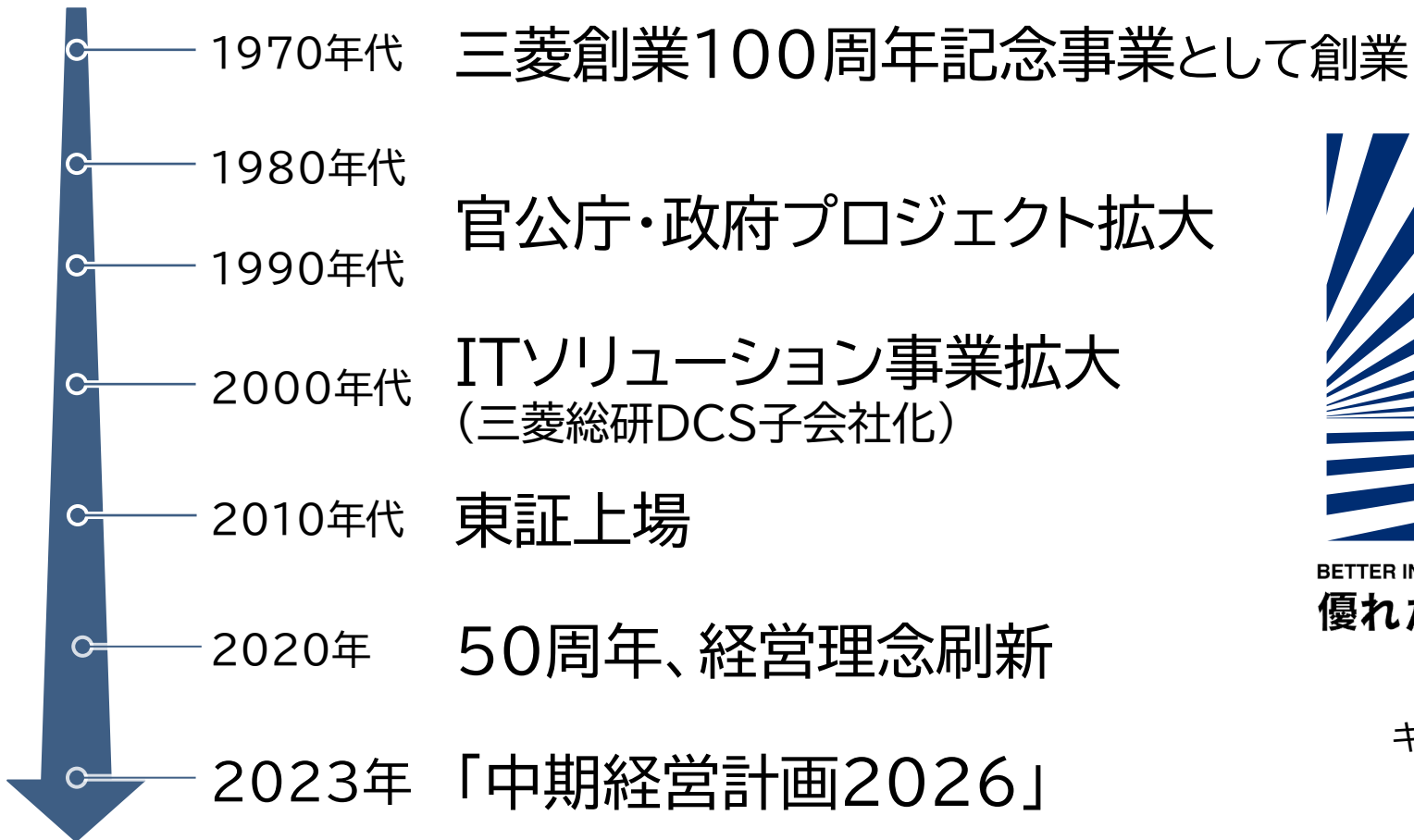


1. 三菱総研グループとは

2. 三菱総研グループの強み
3. 当社グループの事業と方向性
4. 注力する取り組みと具体例
5. 資本政策

1.三菱総研グループとは ～ 沿革

- 総合シンクタンクの草分け
- 情報を活かした社会貢献を目指す:「学際」「独立」「未来志向」



BETTER INFORMATION-BRIGHTER FUTURE

優れた情報で輝く未来

創業当時の
キャッチフレーズと
シンボルマーク

1.三菱総研グループとは ~ 中核企業

- 総合シンクタンクグループ
- 経済・ITから科学技術まで
- 社会課題解決を目指す

MRI 三菱総合研究所

- 1970年創業
- 三菱創業100周年記念事業
- 三菱グループ27社が出資
- 事業持株会社、2009年上場

DCS 三菱総研DCS株式会社 Mitsubishi Research Institute DCS Co.,Ltd.

- 2005年にグループ会社化
- 三菱銀行(当時)のシステム子会社



シンクタンク機能

調査研究・分析予測・制度設計

コンサルティング機能

経営戦略・IT活用戦略立案

ITソリューション機能

システム開発・運用・アウトソーシング

1.三菱総研グループとは ～ 経営理念

経営理念 ～創業50年を契機に刷新（継承と変革）～

三菱総合研究所は、豊かで持続可能な未来の共創を使命として、世界と共に、あるべき未来を問い続け、社会課題を解決し、社会の変革を先駆ける

1 ミッション
果たすべき使命

社会課題を解決し、
豊かで持続可能な未来を共創する

2 ビジョン
目指す企業像

未来を問い続け、変革を先駆ける

3 コミットメント
ステークホルダーへの約束

継承

変革

研鑽 知の統合

スタンス 挑戦 リアリティ

1.三菱総研グループとは ～ 事業構成

事業セグメント

主なお客様

主な業務

シンクタンク・
コンサルティング
サービスセグメント

売上高: **454**億円

営業利益: **34**億円

官公庁

一般産業

調査・分析・実証

コンサルティング

DX等関連コンサル・サービス など

ITサービス
セグメント

売上高: **699**億円

営業利益: **36**億円

金融

一般産業

システム開発・保守

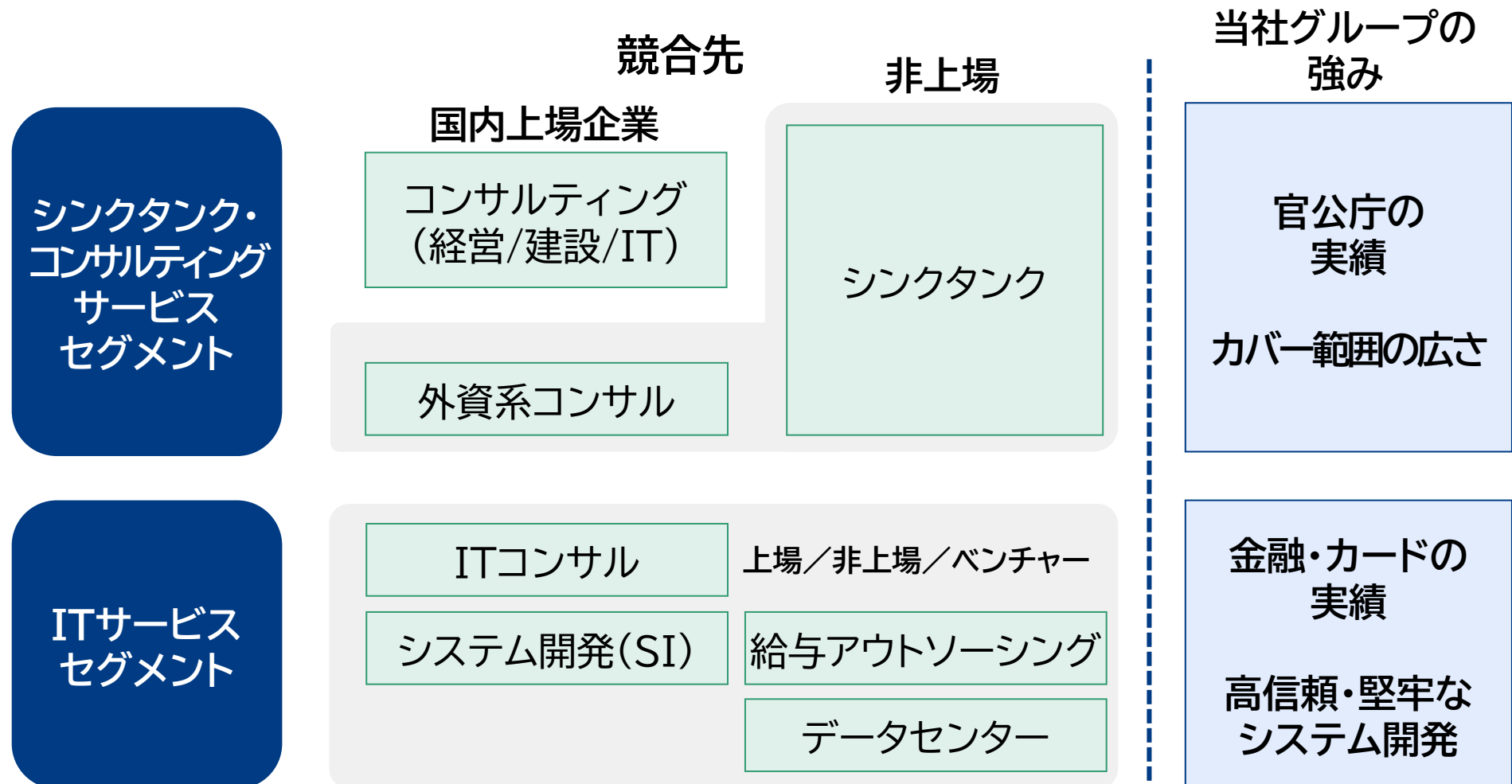
アウトソーシング

DX等関連サービス など

(2024年9月期)

1.三菱総研グループとは ～ 競合

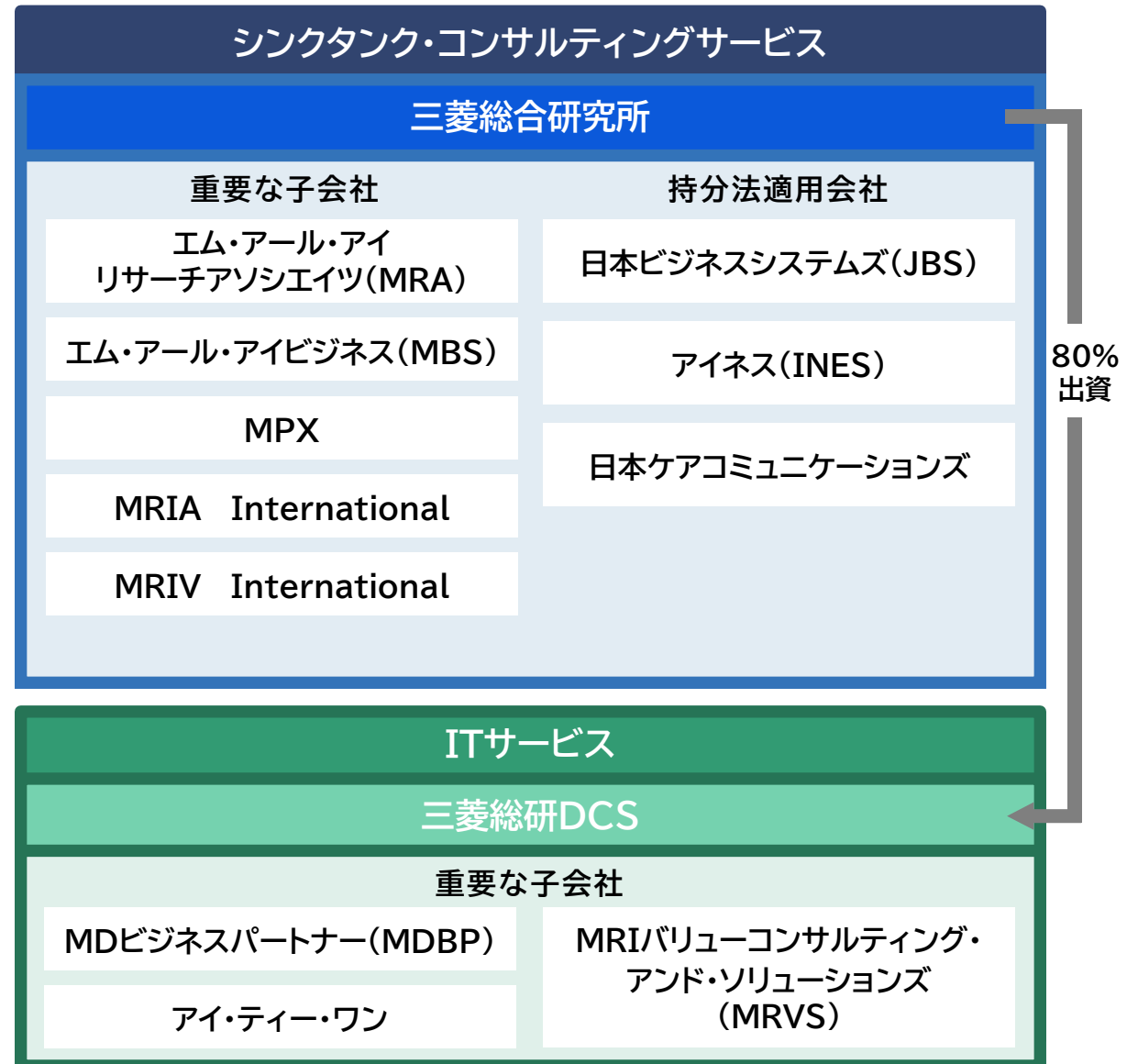
- 国内上場企業としてユニークな業態
- 全面的競合は少なく、セグメント・分野ごとにさまざま競合が存在



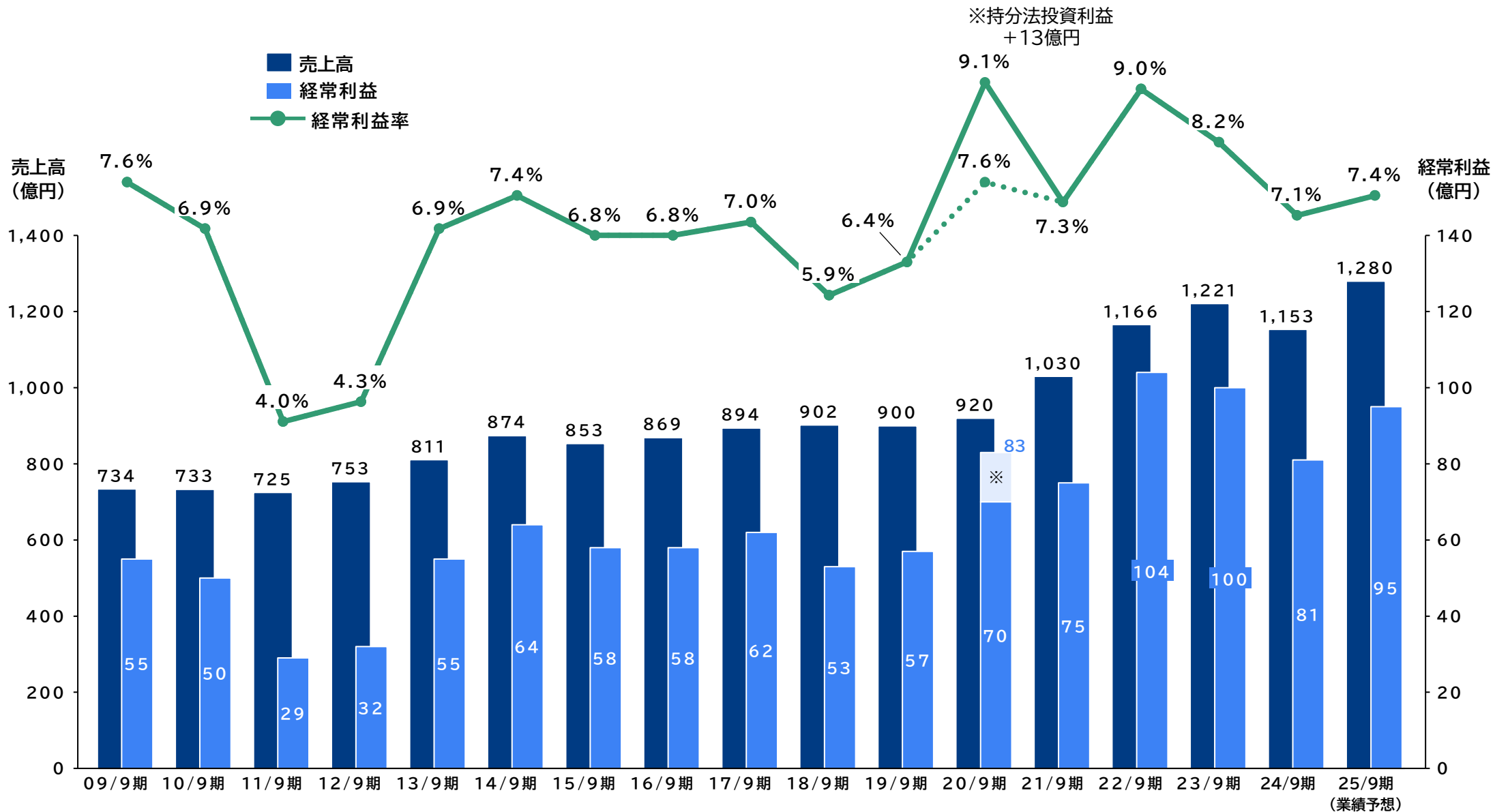
1.三菱総研グループとは ～ 概要

● 三菱総研グループ概要

商号	株式会社 三菱総合研究所 (略称:MRI)
本社	東京都千代田区永田町二丁目10番3号
代表者	代表取締役社長 藪田 健二
資本金	63億円
従業員数	4,573名(連結)、1,202名(単体)
上場市場	東京証券取引所プライム市場(3636)



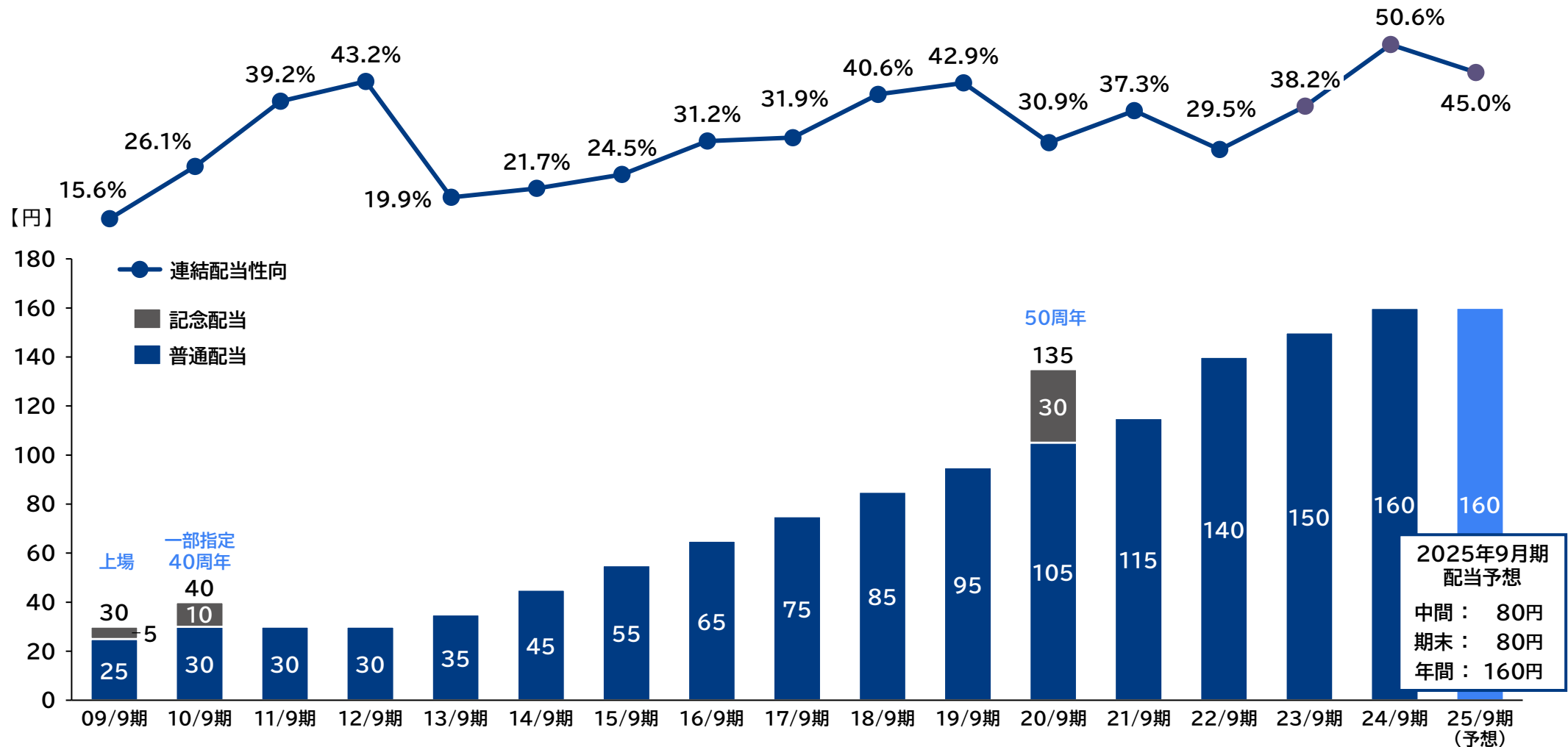
1.三菱総研グループとは ～ 業績



1.三菱総研グループとは ～ 配当

配当方針

継続的な安定配当を基本に、業績や将来の資金需要、財務健全性のバランス等も総合的に勘案し決定。配当性向40%を目安とする。



1. 三菱総研グループとは

2. 三菱総研グループの強み

- ①シンクタンク(祖業)が中核
- ②安定した顧客基盤
- ③多彩なプロフェッショナル人材

3. 当社グループの事業と方向性

4. 注力する取り組みと具体例

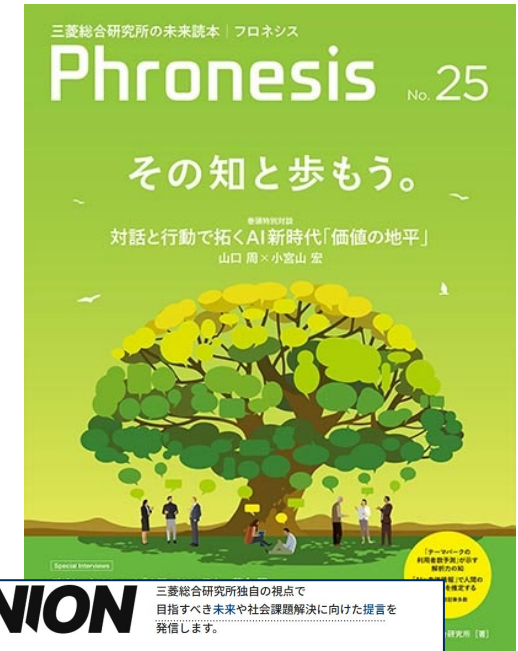
5. 資本政策

2.三菱総研グループの強み ～ ①シンクタンク(祖業)が中核

独自のさまざまな政策提言・情報発信活動

【最近の提言・情報発信の例(一部)】

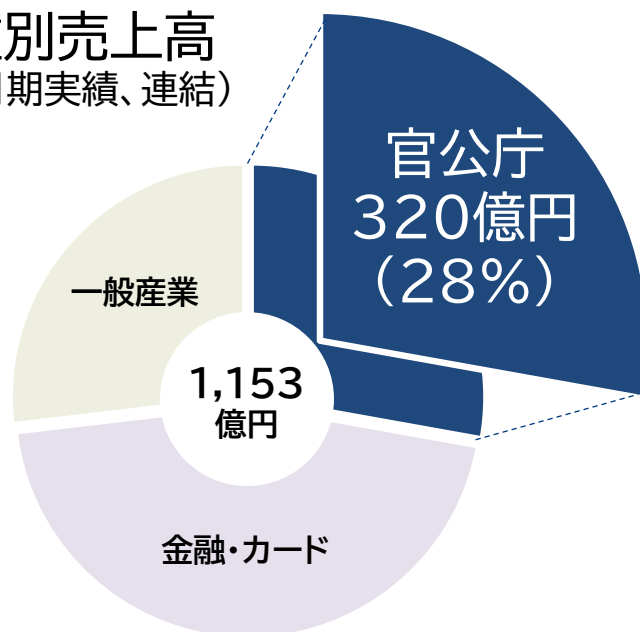
- **日本の社会課題に関連するさまざまな展望・政策提言**
 - 次期科学技術・イノベーション基本計画への14の提言
 - 生成AIの普及による日本の電力需要への影響
 - 食料安全保障の長期ビジョン／食農分野の環境負荷低減
 - 2040年問題を克服するための「自律的な医療介護システム」など
- **未来社会像の実現に向けた研究・提言活動**
 - 未来読本『フロネシス』-その知と歩もう
 - ウェブマガジン「MRIオピニオン」
 - ・ AI・ロボティクスが導く未来社会と課題
 - ・ 時代は生成AIからAIエージェントへ
 - ・ 第7次エネルギー基本計画を政策融合の契機に など



2.三菱総研グループの強み ~ ②安定した顧客基盤(1)

● 安定した顧客基盤：官公庁

顧客業種別売上高
(2024年9月期実績、連結)



中央省庁売上高 主要顧客
(2024年9月期実績、単体)

省庁
デジタル庁
総務省
厚生労働省
経済産業省
内閣官房

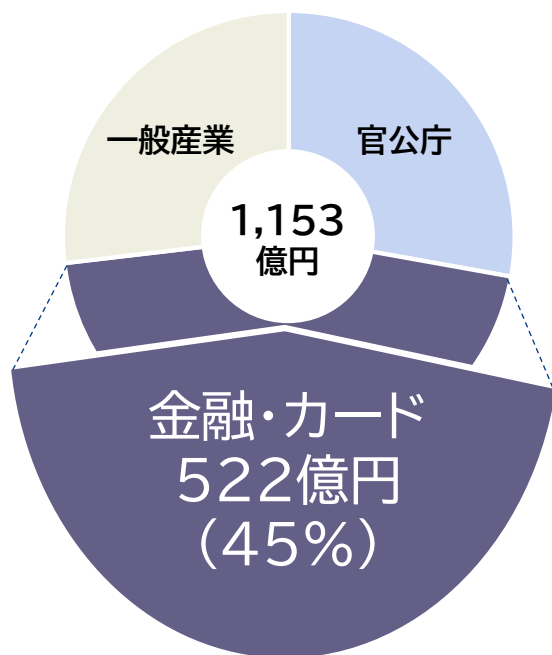
受託業務の例

案件名	省庁
地域社会DX推進パッケージ事業	総務省
遺伝子治療実用化基盤促進事業	厚生労働省
ガバメントクラウド先行事業(基幹業務システム)における調査研究	デジタル庁

2.三菱総研グループの強み ～ ②安定した顧客基盤(2)

● 安定した顧客基盤：金融・カード

顧客業種別売上高
(2024年9月期実績、連結)



受託業務の例

メガバンク向け

- メガバンク基幹システム
- 外為インターネットバンキング
- 市場リスク管理ソリューション
- 個人ローン審査システム など

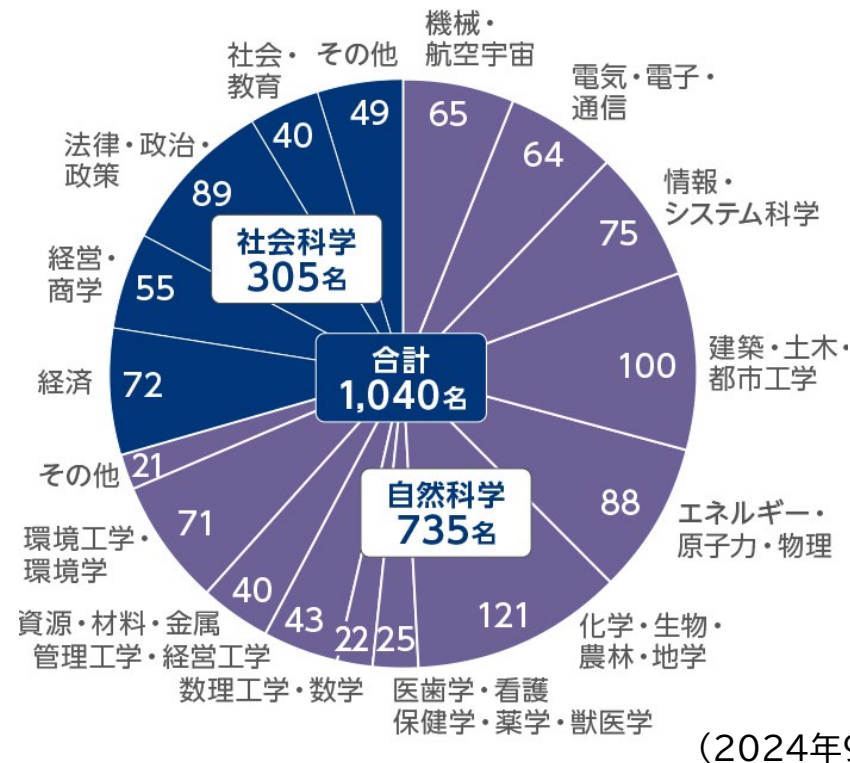
カード会社向け

- クレジット決済システム
- 入会審査システム
- 各種法改正対応 など

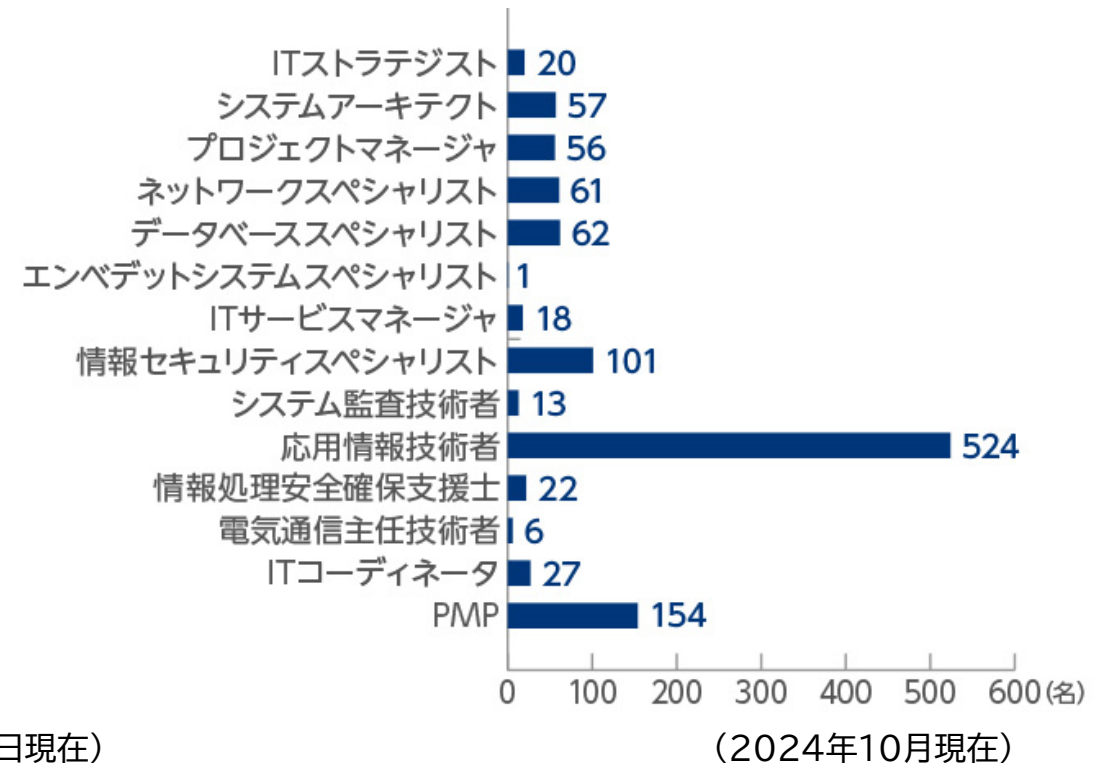
2.三菱総研グループの強み ～ ③多彩なプロフェッショナル人材

- 多様で専門性の高い人材
- 研究員の3/4は自然科学系、75%が修士以上

研究員の 専門領域



三菱総研DCSの 情報処理技術者試験等合格者数



1. 三菱総研グループとは
2. 三菱総研グループの強み

3. 当社グループの事業と方向性

4. 注力する取り組みと具体例
5. 資本政策

3.当社グループの事業と方向性

目指す姿

- シンクタンクとITサービスの強みを掛け合わせ(コンサル×IT)
- 研究提言・リサーチコンサル・IT実装・サービスをワンストップで提供
- 2030年に売上高2,000億円規模を目指す

事業イメージ

官公庁の強み
を活かす

政策・制度起点の公共・民間向け事業
⇒社会・公共イノベーション事業

金融・カードの強み
を活かす

金融システム知見起点の金融機関向け事業
⇒金融システムイノベーション事業

新たな強みを
創り出す

経営課題起点の民間向けDX事業
⇒デジタルイノベーション事業

3.当社グループの事業と方向性～主要事業の構成と規模イメージ

● 事業ポートフォリオと事業規模イメージ

- ☑ シンクタンク 社会潮流の形成を図る自主事業
- ☑ 社会・公共イノベーション 政策・制度知見起点の公共・民間向けサービス事業
- ☑ デジタルイノベーション 経営課題起点の民間向けDX事業
- ☑ 金融システムイノベーション 金融システム知見起点の金融機関向け事業

主要事業	2024/9期の 事業規模	2026/9期の 事業規模(見込み)	主な事業方針
社会・公共イノベーション	396億	520億	<ul style="list-style-type: none"> - 官民協働エコシステム形成 - 準公共分野のSI・DX推進 - ストック事業重点分野拡大
デジタルイノベーション	279億	350億	<ul style="list-style-type: none"> - 製造・流通向けDX拡大 - データ分析・AI事業強化 - 人材・文教サービス強化 - 政策起点の公共システム展開
金融システムイノベーション	487億	460億	<ul style="list-style-type: none"> - 大型システム案件完遂 - 既存顧客深耕、新事業構築 - 金融コンサル拡充・DX展開

※計数はすべて概数

3.当社グループの事業と方向性～中期経営計画2026計数計画

	23/9期 実績	24/9期 実績	26/9期 目標	23/9期 →26/9期	23/9期比 平均成長率
売上高	1,221億円	1,153億円	1,350億円	+128億円	3.4%
営業利益 (率)	86億円 (7.1%)	70億円 (6.1%)	120億円 (8.9%)	+33億円 (+1.8Pt)	11.4%
経常利益 (率)	100億円 (8.2%)	81億円 (7.1%)	140億円 (10.4%)	+39億円 (+2.2Pt)	11.9%
ROE	9.8%	7.5%	12.0%	+2.2Pt	—

1. 三菱総研グループとは
2. 三菱総研グループの強み
3. 当社グループの事業と方向性

4. 注力する取り組みと具体例

5. 資本政策

4.注力する取り組みと具体例～社会・公共イノベーション事業

● リサーチコンサル

「都市・インフラ・モビリティ」(インフラDX、空飛ぶクルマ等)
「ヘルスケア・人材(健康経営、スマートヘルス等)、
「エネルギー・循環・サステナビリティ」(GX、農業経営等)
「テクノロジー」(宇宙・海洋、経済安保等)



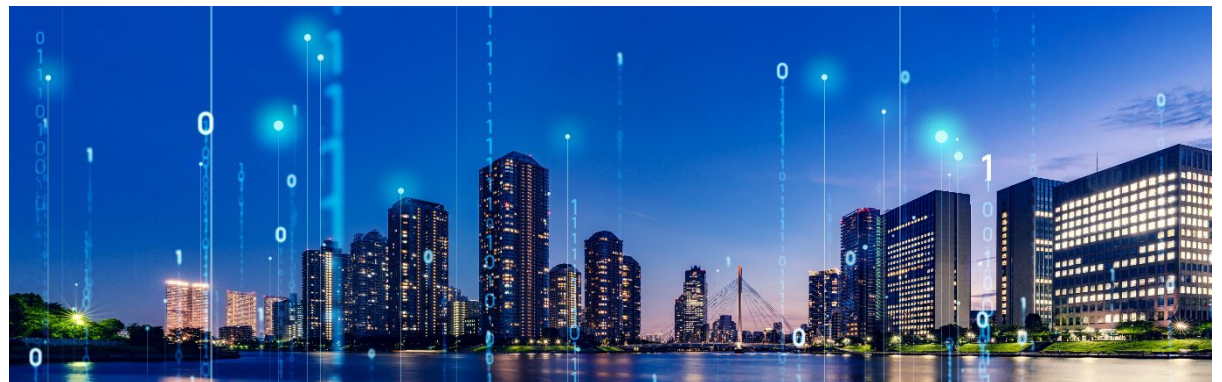
● 政策・制度起点サービス

「エネルギー」(MPX、MERSOL等)
「人材」
「都市・モビリティ」「ヘルスケア」



● 公共DX

医療・介護DX
貿易・物流DX(貿易プラットフォーム等)
デジタルガバメント(政府情報SI等)
地域共創DX(住民向けサービス等)
政策起点(デジタルツイン・防災DX等)



4.注力する取り組みと具体例～社会・公共イノベーション事業

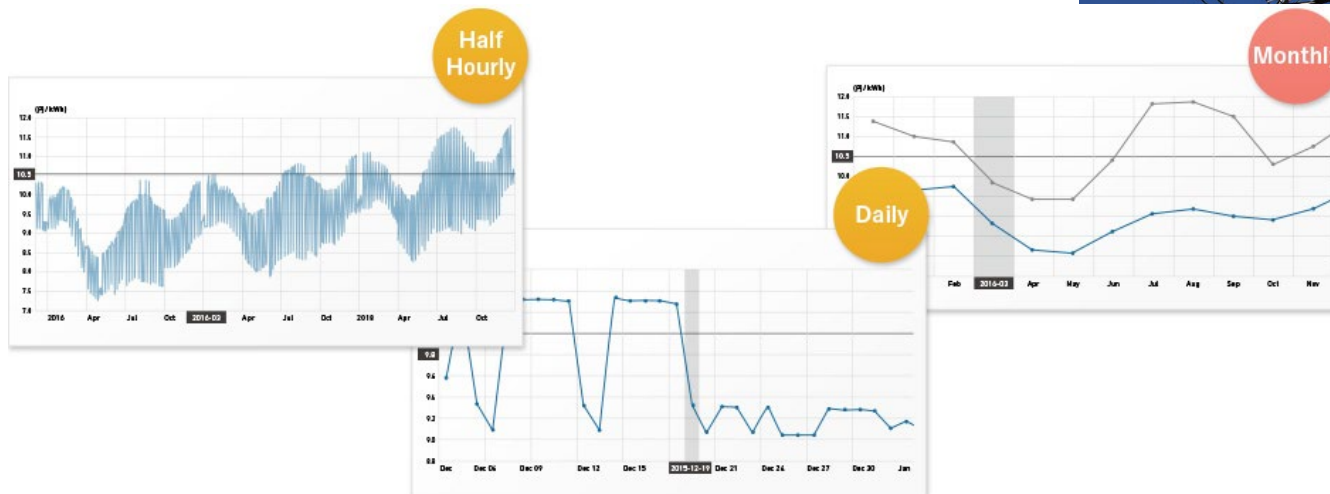
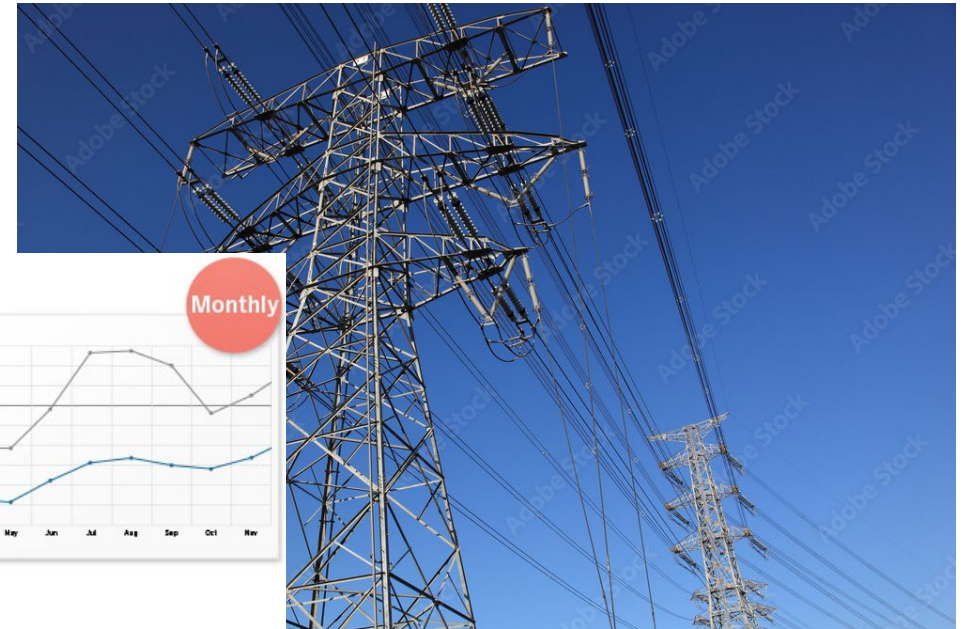
GX(エネルギー)

電力システム改革を捉え、いち早くサービス投入し、市場を開拓

● MPX

卸電力取引のためのオンライン情報サービス

- 我が国初の卸電力取引向けフォワードカーブ配信サービス
- オランダKYOSをパートナーとして提供
- 2022年、三菱総研から分社化



4.注力する取り組みと具体例～社会・公共イノベーション事業

GX(エネルギー)

カーボンニュートラル達成に向け分散型エネルギー源の運用を効率化

● MERSOL(マーソル)

- 分散型エネルギーリソース(DER)を活用したビジネスを検討する事業者向け
- 当社独自のシミュレーション技術に基づいた分散型エネルギーリソース運用支援サービス「MERSOL」を提供
- 複数の用途を組み合わせた運用シミュレーションが可能

MERSOLのコンセプト



MERSOL

4.注力する取り組みと具体例～社会・公共イノベーション事業

DX(東京都デジタルツイン)

地理空間データを活用した見える化

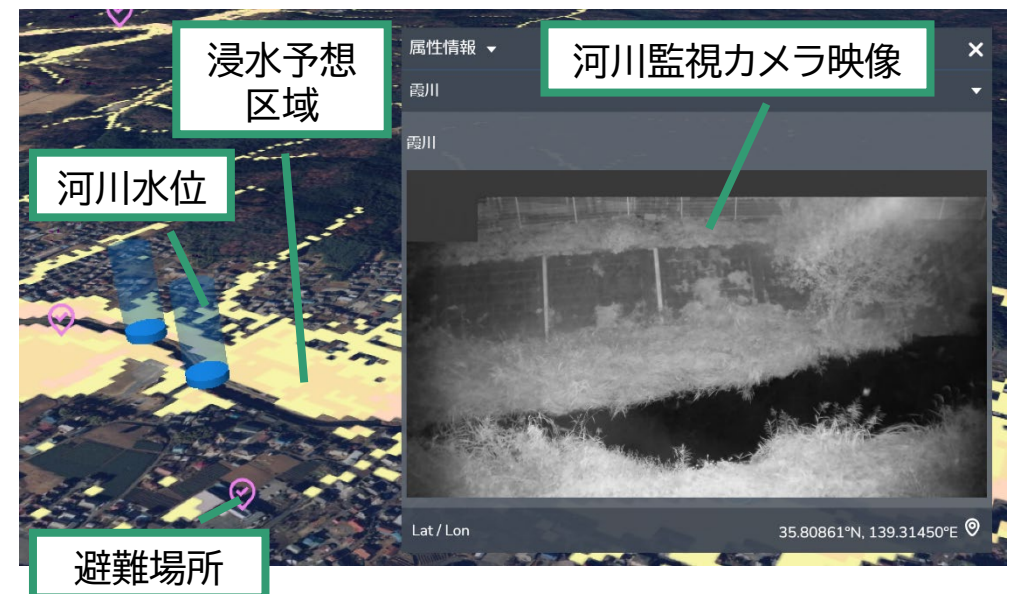
● 東京都「デジタルツイン検証・開発プロジェクト」

- 東京都の地理空間データの共有・活用による業務効率化やデータの可視化・オープン化によるオープンイノベーション創出
- 都の各部局が持つ地理空間データを登録・出力するプラットフォームを構築・運用
- 登録されたデータを職員・都民が可視化・閲覧することができる仕組み(3Dビューア)を構築・運用

<デジタルツイン3Dビューア描画例>

台風・大雨等発生時に有用な、
河川に関するデータを描画

(出所)東京都デジタルツイン3Dビューア(β版)
<https://3dview.tokyo-digitaltwin.metro.tokyo.lg.jp/#share=s-cvtMVN4dS2lZFCFG>(閲覧日:2023/11/6)



4.注力する取り組みと具体例～デジタルイノベーション事業

● DXコンサル

重点顧客(規制業種等への経営・DXコンサル)

● ERP(基幹系情報システム)、SI

既存大口顧客のシステム更改
クロスセル等、DX商材

● データ分析(DA)、AI事業、サービス事業

DAコンサル・サービス
AIシステム開発
人事・文教分野

● 公共DX

医療・介護DX
貿易・物流DX(貿易プラットフォーム等)
デジタルガバメント(政府情報SI等)
地域共創DX(住民向けサービス等)
政策起点(デジタルツイン・防災DX等)



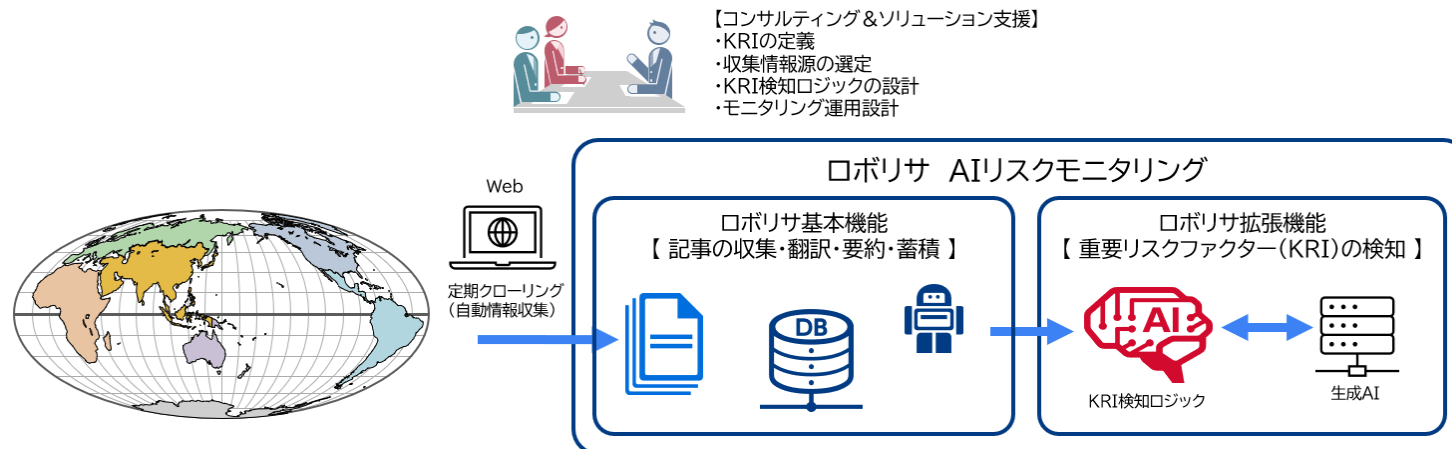
4.注力する取り組みと具体例～デジタルイノベーション事業

DX

生成AIを活用、自動的に情報収集・レポートまで作成するサービスを市場投入

● ロボリサ

- 情報収集・分析・レポートを自動化する業務改革ツール(WebサーベイAI)
 - 情報収集作業を約80%削減可能
 - 業界動向・海外動向や技術動向の把握
 - 社内報告・レポート業務への活用
- 当社が取り組んできたリスクマネジメントコンサルティングと組み合わせた拡張機能として、「AIリスクモニタリング」を提供開始(2024年12月)
 - 目まぐるしく変わる国際情勢とそれに伴い変化する社会環境や規制等の動向変化をタイムリーにキャッチ



4.注力する取り組みと具体例～デジタルイノベーション事業

HX

受験に関わるインターネットサービスを提供、広く普及

● miraicompass[®]

幼小中高向けのインターネット出願サービス



- 三菱総研DCSが提供
- 全国約1,910校の小・中・高校の受験生・保護者の方がご利用
- 出願をはじめ資料請求や説明会の予約、入学手続まで学校と受験生をオンラインで繋ぐことで手作業を大幅に軽減



4.注力する取り組みと具体例～金融イノベーション事業

- 大型システム案件等の完遂

- 既存顧客拡大・新規事業等

既存重点顧客向け拡大

業務集約・EOS*1等の主要イベント対応

脱ホスト・マイクロサービス化

MRI・DCS連携によるBaaS*2ワンストップサービス開発

現行システム改善、基盤EOS対応事業

金融向けコンサルの提言機能強化、テーマ拡大

*1:End of Supportの略。

企業が製品等のサポートを終了すること。ソフトウェアの場合、バージョンアップ等の対応が必要になる。

*2:Banking as a Serviceの略。

銀行が提供している機能やサービスを、他のさまざまな企業が自社サービスに組み入れて利用できるようにする仕組みを指す。



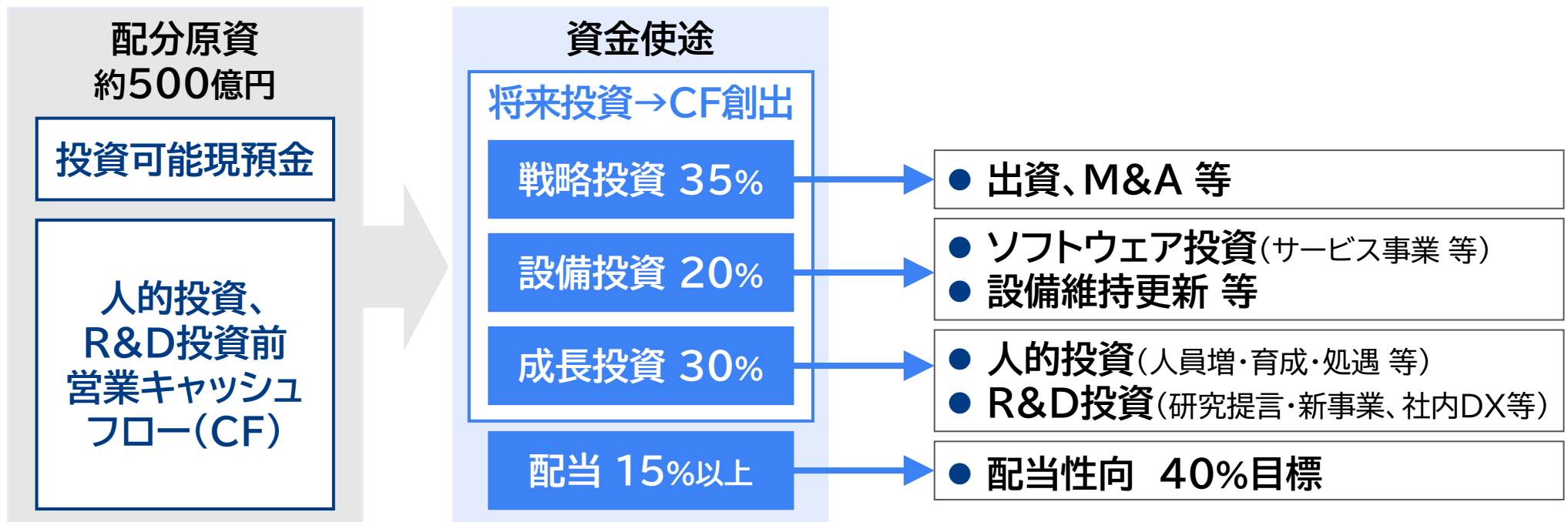
1. 三菱総研グループとは
2. 三菱総研グループの強み
3. 当社グループの事業と方向性
4. 注力する取り組みと具体例

5. 資本政策

5.資本政策 ～ 中期経営計画2026より

- 配分原資から85%程度を投資に積極活用
 - 【戦略投資】重点領域成長に向けた先進技術・知見・リソースの獲得(出資、M&A等)
 - 【設備投資】経営インフラ、サービス基盤強化(ソフトウェア、設備維持更新等)
 - 【成長投資】人的投資、研究・提言力強化、新事業開発、社内DX等
増員：約500名超(23年→26年比)
- 安定配当を基本に配当性向40%を目安

※政策保有株式は、一部売却も進め、現在純資産の8%。今後も事業影響を見極め縮減・入替を進める
 ※現預金は、手元資金として売上高の2～3カ月程度を確保したうえで、その他を将来投資・還元に充当



お知らせ

●【登録受付中】 IRメール配信サービスをリニューアルしました

The screenshot shows the MRI Investor Information page. At the top, there is a navigation bar with 'MRI 三菱総合研究所' and '投資家情報'. Below this, there is a section for '投資家情報' (Investor Information) featuring a portrait of a man and a '株価情報 (リアルタイム)' (Real-time Stock Price) section showing a current price of 4,885. Below the main content, there are sections for '最新決算資料ダウンロード' (Latest Financial Statement Download), 'IRイベント' (IR Event), and 'IRニュース' (IR News). A yellow box highlights a button labeled 'メール配信ご登録' (Register for Email Distribution) with the text '当社の最新情報をメールでお届け' (Deliver our latest information via email).

こちらからご登録ください。



当社からのニュースリリース、決算発表、
そのほかIRに関する情報を迅速にメール
でお知らせします。

投資家情報トップページからもご登録いただけます。
▶ <https://ir.mri.co.jp/ja/index.html>

将来の見通しに関する注意事項

この資料は、将来の見通しに関する記述を含んでいます。予想値を含め、これら将来の見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいた当社判断によるものです。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、予測困難なリスクや不確実性を内包するものです。したがって、実際の業績等はこれら種々の要因によって見通しと異なる結果となることがあります。

当社は、将来の事象や新たな情報等を反映して、将来の見通しに関する記述を更新・改訂する義務を負いません。

- 本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 三菱総合研究所

グループ経営企画部 IR室

E-mail : ir-info@ml.mri.co.jp

URL : www.mri.co.jp/

未来を問い続け、変革を先駆ける

MRI 三菱総合研究所